

## 新規バイオマーカー（遺伝子・血液マーカー）の開発と前立腺癌発症予測プログラムの作成

鈴木啓悦

千葉大学大学院医学研究院泌尿器科学

本研究では、前立腺癌の新規バイオマーカーの開発と前立腺癌の発症を予測するプログラムの作成を目的とした。その概要および成果を以下に箇条書きに記す。

1. 前立腺検診の普及にともない早期前立腺癌の発見率の向上が図られたが、一方結果として無駄となる多くの生検の急増も、患者の身体的・精神的負担や社会経済的側面から問題となっている。現状の PSA やそのパラメータのみでは十分な前立腺癌の有無の予測は困難である。われわれは 800 名以上の初回前立腺生検を受けた患者のデータを基に年齢・前立腺容積・PSA 値・フリー/トータル PSA 値・直腸診所見の 5 項目を重さ付けしたノモグラムを作成し報告した。
2. 前立腺癌の生検を受けた患者における血清テストステロン値の臨床的意義について検討して、ある一定の集団におけるこの意義を見出した。
3. 転移性前立腺癌患者の予後予測における遺伝子多型 (SNP) の意義を検討した。結果として IGF-1 と CYP19 のふたつの SNP の有用性を見つけて報告した。